

「海、山、野」三地区トライアングル交流事業

豊川流域研究会

1 事業の目的

私たちは、戦後食べるために働いていた生活から、豊かで便利で、欲しいものは何でも手に入る時代を迎え、消費は美徳と言われる時代まで経験してきた。そこにはここ東三河地域においては、母なる川「豊川」の水の恵みが大きく寄与してきたことは言うまでもない。しかし一方で、生活の中に、何か大事なものを落としてきた、捨ててきてしまったという感じのする昨今であり、人間関係は疎遠となり、精神的には貧しい社会となったとも言える。

こうした中で私たちは、精神的な豊かさを取り戻すには「人と人とのふれあい」が大切であるとの認識のもと、あらためて私たちの戦後の暮らしぶりを見直してみるの必要性を感じ、「人と人とのふれあいあるまちづくり」をテーマとして、豊川流域の戦後の暮らしぶりを聞き取り調査する取組みを進めてきた。すでに、平成18年度は、農村部の田原市野田町西馬草地区の老人クラブの方々から、平成19年度は、山間地の新城市七郷一色地区の老人クラブの方々から、聞き取り調査を実施した。

本年は海岸部の豊川河口にある豊橋市前芝地区の聞き取り調査をし、その生活の移り変わりを記録するとともに、今の時代に参考となるもの、ヒントを求め、前芝地区の「人と人とのふれあいあるまちづくり」の一助にすることとした。

併せて3年目の今年には調査した豊川の上・下流域及び受益地区の三地区による交流を試みることにし、三地区から参加者を募って交流会を開催する。その上でフォーラムを開催し、豊川流域住民に広く参加を呼びかけ、三地区の聞き取り調査と、交流会の結果を報告し、豊川流域圏に住む者として、それぞれの立場を理解しあえる場をつくり、今後の豊川流域圏一体化の足がかりとする。

2 事業の概要

(1) 豊橋市前芝地区の戦後の暮らしぶりについての聞き取り調査の実施

豊川の河口、三河湾海岸部に位置する豊橋市前芝地区の戦後の暮らしぶりの聞き取り調査を実施した。

実施にあたって、地元前芝町の自治会、老人クラブ等の協力の下、年令70歳以上で、地区内で農業、漁業、その他自営業に従事していた人を中心に、話をしていただける方々を人選した。聞き取り調査は、9月から10月にかけて5回（1回約90分間）に分けて実施し、各回テーマを定めて実施した。

また併せて、戦後の前芝地区の状況のわかる写真も集め、聞き取り調査の参考とすることとした。

(2) 三地区交流会の開催

前芝地区での聞き取り調査後、1年目の調査地区である田原市野田町西馬草地区、2年目の調査地区である新城市七郷一色地区及び今回の前芝地区の三地区の住民による交流会「海、山、野」トライアングル交流会」を企画し、11月18日に、前芝地区において開催した。

この三地区は、豊川の受益地域、上流域、下流域にそれぞれ当たることもあって、交流会を通じて、互いにそれぞれの立場、環境を理解し合い、流域圏の連帯意識を醸成することも狙いとした。

交流会では、三地区の現状の確認と、3年間にわたる聞き取り調査の結果による三地区の戦後の暮らしぶりの発表を行い、三地区の今後のあり方についての意見交換を行った。

また、芸能発表、懇談・食事会、ビデオ鑑賞、前芝地区内の現況の視察も実施し、なごやかな雰囲気の中で交流が深められるようにした。

(3) フォーラムの開催

三つの地区の戦後の暮らしぶりの聞き取り調査、三地区交流会開催の成果を踏まえ、「前芝・七郷一色・西馬草の戦後のくらしと流域圏づくり」をテーマに、「海、山、野」トライアングル交流フォーラム」を、12月20日に、豊橋市内で開催した。

開催にあたっては、三地区内はもとより、広く豊川流域圏内住民に参加を呼びかけ、三地区の戦後の暮らしぶりの聞き取り調査結果の報告とともに、パネルディスカッションにより、「地域住民の手による豊川流域圏づくり」について意見交換を行った。

(4) 成果報告書の作成・配布

前芝地区での聞き取り調査結果、三地区交流会・フォーラムの開催状況を記録に留めた成果報告書を作成し、豊川流域圏内の自治体、公共施設、関係機関等に配布した。

3 具体的な実施結果

(1) 前芝地区の戦後の暮らしぶりについての聞き取り調査の実施

① 聞き取り調査の前準備

聞き取り調査を実施するにあたって、まず、前芝神明社氏子総代、前芝町正・副自治会長、前芝町老人クラブ代表に世話役をお願いし、前芝町内6老人クラブの各会長に、話をしていただける方の人選など協力を依頼した。人選にあたっては、年令70歳以上で、地区内で農業、漁業、その他自営業に従事していた人を中心に推薦していただき、その結果、男性11人と女性7人の方をお願いすることとなった。

話をしていただける方、世話役、その他協力者への事前説明会を、平成 20 年 8 月 29 日（金）、前芝地区市民館にて開催し、聞き取り調査の進め方について説明した。その際、聞き取り調査の参考にするため、戦後の前芝地区の状況のわかる写真も集めたい旨依頼をした。

（結果的に写真については、50 枚くらい集めることができ、聞き取り調査の場や交流会、フォーラムにおいて展示・利用して、戦後の暮らしぶりが目でも理解できるようにした。）

② 聞き取り調査の日程及び主な聞き取り事項

平成 20 年 9 月 12 日（金）を第 1 回、以降 10 月 8 日（水）まで毎週 1 回実施した。

5 回の聞き取り調査後、11 月 12 日（水）に追加の補足聞き取りを行った。

回	月 日	テーマ	主な聞き取り事項
第 1 回	9 月 12 日(金)	海・川の仕事	海苔のこと、あさり・はまぐりのこと、白魚のこと（生産から販売まで）
第 2 回	9 月 18 日(木)	海・川以外の仕事	農作業のこと、船大工・大工・左官・お店のこと
第 3 回	9 月 25 日(木)	暮らし	衣食住・共同浴場・洗い場のこと
第 4 回	10 月 2 日(木)	祭事・催事	神明社の祭り・厄祭り・結婚式・葬式のこと
第 5 回	10 月 8 日(水)	まわりのこと	青年団・消防団・婦人会のこと、13 号台風、全体を通してこれからの前芝に一言、子や孫に一言
補足	11 月 12 日(水)		

③ 聞き取り調査の方法

・会場は豊橋市前芝地区市民館とし、男性グループと女性グループに別れ、部屋も別にする。

・豊川流域研究会のメンバーが司会・進行・記録をする。

《聞き取り調査スタッフの班割》

	司会・進行	記録	補助
男性班	森長千臣	山本春美	田中 實
女性班	山田政俊	山内規雄	加藤正敏

・5 日間 5 回の聞き取りで、1 回が約 1 時間 30 分にする。

- ・聞き取り調査の対象は、戦後の昭和 20 年代から 40 年代くらいを中心に、前芝での暮らしぶりについて自分が実際に体験したことや、見たり聞いたりしたことを話してもらう。
- ・各回とも、聞き取り終了後ミーティングを行い、次回に備えるようにした。
- ・愛知大学の先生及び学生にも、各回 3～4 人、オブザーバー・応援として参加してもらった。



男性班の聞き取り調査



女性班の聞き取り調査

④ 聞き取り調査の結果

【詳細は別途、成果報告書を参照のこと。】

当初は、もう少し聞き取り調査項目を増やしたかったが、時間的な制約もあり、項目を絞ることにした。そのため、前芝地区の戦後の暮らしぶりの一部は、聞き取った内容の全体から推測する項目もあった。しかし、生活の実体験者の話であり、会を重ねるごとに気楽に方言で発言されるようになり、そういう言葉の端々からも、前芝地区の漁民本来の気質・暮らしぶりが伺うことができた。

聞き取り調査結果を見ると、地域の連帯感が薄れ、人と人との繋がりも薄くなってきていることが見えてきた。昔の村の中で生活していた人たちからすると、今は孤独で淋しくて話し相手がいない、昔のように仲間で助け合うというようなことは無くなってしまった、どこで誰が何をやっているのか知らずにいる、というように受け取られているようだ。

これは前芝地区だけの問題でなく、どの地域においても起きている問題ではないかと思われる。昔やっていたことを、今からやろうと思っても、もう後戻りはできない。昔そういう、良い時代があったのなら、現在はそれに代わる何かをやり、人と人との繋がりを取り戻し、地域の連帯感を高めていくことが大事な時であると思われる。

(2)「海・山・野」トライアングル交流会の開催

① 開催概要

日 時 : 平成 20 年 11 月 18 日 (火) 10:00~14:00

会 場 : 前芝集会所・豊橋市前芝地区市民館

参加者 : 豊橋市前芝地区 (海岸部・豊川河口付近) の住民
新城市七郷一色地区 (山間部・豊川上流域) の住民
田原市野田町西馬草地区 (農村部・豊川用水受益地域) の住民
各 22~23 人

スタッフ・関係者含め約 80 人

開催主旨 : 3 年にわたって戦後の暮らしぶりの聞き取り調査を実施してきた三地区の住民の皆さんに、豊川河口部前芝地区に集まってもらい、親しく交流を図る。同時に、互いにそれぞれの立場、環境を理解し合い、豊川流域圏の連帯意識を醸成することも狙いとする。

その他 : せっかくの機会ということで、お互いに隣の人と声かけ合って話し合い、今日は良かったなあと、お土産話を持って帰れるように配慮した。

七郷一色地区、西馬草地区からは、マイクロバスをチャーターして、足の便を図った。

前芝地区市民館の 2 階では、三地区の戦後の写真を各地区 20 点持ち寄り、計 60 点の戦後の写真展も開催した。



会場の看板



戦後の写真展



参加者

② プログラム

【開会式】

10:00 あいさつ

豊川流域研究会 代表	加藤正敏
愛知県地域振興部土地水資源課 主任主査	崎下雅司
愛知大学三遠南信地域連携センター 事業責任者	岸本恵次郎
地元代表(前芝神明社氏子総代)	林 矩道

【交流会】

10:30 らくらく体操 (指導：愛知大学学生)

女子大生2名が、出席者に一緒にやってくださいと話しかけ、軽い上半身体操とゲームなどでなごやかな雰囲気作りができた。

10:40 三地区の紹介

各地区代表が、数十枚の写真によりパワーポイントを使いながら、地区の紹介をした。西馬草地区は河合信一さん、七郷一色地区は荻野鐵夫さん、前芝地区は松下四郎さんがそれぞれの地区がどのような所か歴史も含め紹介され、認識を深めた。

11:25 芸能発表

各地区から一人ずつ芸能発表を行った。西馬草地区の山田敏さんのどじょうすくい、やんやの喝采を浴び、一挙会場が一つの輪になった。七郷一色地区の請井光二さんは黒沢田楽の由来を説明された。前芝地区の北河重春さんのハーモニカはなつかしのメロディを3曲披露された。

11:40 三地区の戦後の聞き取り調査のまとめ

当研究会代表 加藤正敏から、「戦後のくらしぶりより、今を見て」と題して、3ヵ年にわたる三地区の聞き取り調査のまとめを、簡単に紹介した。



あいさつ



らくらく体操



芸能発表

【懇談会・食事会】

12:00 懇談会・食事会

懇談会・食事会は、3か所の部屋に別れて行うことにした。各地区ともに3班に別れ、どの部屋にも3地区の人が入る形で食事をする。せっかく前芝へ来てもらったのだからと、弁当の他にあさり汁を支度した。地元前芝地区の女性の方にボランティアで応援してもらい、ハソリでアサリ汁を作り、前芝の味がすると喜ばれた。また前芝特産の佃煮も工場から直接分けてもらい賞味した。各部屋とも、十分に懇談・交流を図ることができたのではないかな。

【前芝めぐり】

13:00 前芝めぐり

西馬草地区、七郷一色地区の方はマイクロバス2台に乗り、前芝町正・副自治会長の案内で、前芝めぐりをした。

前芝地区市民館前 — お宮川岸・西船溜り — 前芝燈明台・
杵野甚七碑 — 前芝海岸 — 前芝小学校 — 前芝神明社

前芝海岸では、特に七郷一色地区の方々は、昔小学校の遠足で来て以来という方が多く、なつかしさがっていた。前芝小学校では日本で一番早くできたと言われる二宮金次郎の像も見てもらった。

前芝地区の方には、その間前芝地区市民館談話室にて、七郷一色地区の伝統芸能“黒沢田楽”のビデオ鑑賞をした。

【記念写真・閉会式】

14:00 記念写真・閉会式

前芝めぐりから戻ったところで、前芝神明社前で参加者全員で、記念写真を撮り、前芝神明社の氏子総代林さんの神明社の由来を聞き、松下前芝自治会長の閉会のあいさつで終了した。



懇談会・食事会



記念写真

(3) 「海、山、野」トライアングル交流フォーラムの開催

① 開催概要

日 時 : 平成 20 年 12 月 20 日 (土) 13:00~16:00

会 場 : 愛知大学豊橋校舎 本館 5 階 第 3・4 会議室

参加者 : 約 80 人

開催主旨: 「前芝・七郷一色・西馬草の戦後の暮らしと流域圏づくり」をテーマとし、三つの地区の戦後の暮らしぶりの聞き取り調査、三地区交流会開催の成果報告とともに、パネルディスカッションにより、「地域住民の手による豊川流域圏づくり」について意見交換を行った。

広 報 : ポスター 200 枚、ちらし 3,000 枚を作成し、流域圏内の自治体、公共施設、集客施設等に配布した。

ポスター

2008年度 愛知県豊川流域圏づくり推進事業

海・山・野

トライアングル交流フォーラム
—前芝・七郷一色・西馬草の戦後の暮らしと流域圏づくり—

日 時 2008年12月20日(土) 13:30~16:00
会 場 愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室

高気成長期の経済発展は物質的な豊かさをもたらした反面、人間関係の希薄化を生み出しました。そこで、豊川流域研究会では3年間にわたり「人と人とのふれあい」のあるまちづくりのヒントを得るために、経済高度化以前の時代を生きてきた、前芝、七郷一色、西馬草の3地区のお年寄りを対象に、戦後の暮らしぶりの聞き取り調査を行いました。

そして、このたびは本会活動の3年間の拡大成果として、広く流域住民の参加のもと、本フォーラムを開催します。多くの方の参加をお待ちしております。

第1部 豊川流域研究会の取組み報告 ●13:40~14:15
—戦後の暮らしぶりの聞き取り調査結果—

2008年度調査	田原市野田町西馬草地区	山田政俊
2007年度調査	新城市七郷一色地区(旧鳳郷町)	藤長千臣
2006年度調査	豊橋市前芝町	加藤正敏

第2部 パネルディスカッション ●14:20~15:55
「地域住民の手による豊川流域圏づくり」

パネリスト
瓜生徳男(野田校区自治会長)
荻野健夫(新城市七郷一色区長)
若子 正(西馬草・前芝の町会代表)
山本孝美(豊川流域研究会)

コメンテーター
相野幸信(豊川流域圏研究会)
菅野正康(愛知大学経済学部教授)

コーディネーター
平川雄一(愛知大学三遠南信地域連携センター研究員)

主 催 豊川流域研究会 愛知県
後 援 愛知大学三遠南信地域連携センター
三遠南信地域交流ネットワーク会議
特定非営利活動法人 霧の国づくりの会
豊川流域研究会(代表 加藤正敏)

問合せ先
TEL 0532-924127

② プログラム

【開会挨拶等】

13:30 開会挨拶 愛知県地域振興部水資源監 相羽幸信

13:35 趣旨説明 豊川流域研究会 代表 加藤正敏

【第1部 調査報告】

13:40 豊川流域研究会の取組み報告 —戦後の暮らしぶりの聞き取り報告—

2006年度調査 田原市野田町西馬草地区 山田政俊

2007年度調査 新城市七郷一色地区 森長千臣

2008年度調査 豊橋市前芝町 加藤正敏

当研究会のメンバーから、3カ年にわたる3地区の戦後の暮らしぶりの聞き取り調査結果の報告を行った。特に山田さんは、西馬草地区の戦後の生活道具など現物を見せながら、当時の共同のつるべ井戸の深さを、会場の前から最後部まですずらんテープで伸ばして見せ、「これだけの深さを女性や子供が毎日水汲みしていたんですよ」と17～18mの深さを説明するなど、当時の暮らしぶりがわかりやすく報告された。



調査報告

【第2部 パネルディスカッション】

14:20 パネルディスカッション「地域住民の手による豊川流域圏づくり」

パネリスト	瓜生徳男（前・野田校区自治会長） 荻野鐵夫（前・新城市七郷一色区長） 若子 正（元漁師・東三海苔研究会副会長） 山本春美（豊川流域研究会）
コメンテーター	相羽幸信（愛知県地域振興部水資源監） 岩崎将也（愛知大学経済学部教授）
コーディネーター	平川雄一（愛知大学三遠南信地域連携センター研究員）

パネリストからは、戦後から今に至る変化の中で、三地区それぞれが抱えている問題点は多々あるが、三地区とも共通して言えるのは、かつては生き生きと皆元気で、近隣との連帯感があり、常に互いに連絡を取り合い、話し合わなければならなかった。それが今思えば、生活していく上でのいい知恵の蓄えであった。また、かつては豊川を介しての交流もあり、水の恵みの大切さを再認識しなければならないとの発言があった。

会場の一般参加者からの発議により、「人と人が寄り添うまちづくり」の手法についての意見交換の場面もあった。

コメンテーターからは、特定の地域のなかで世代間継承ができないのであれば、水平的な地域を越えた関係の中での情報交換が重要になる等の意見が出された。

「地域住民の手による豊川流域圏づくり」という大命題について、終始活発な意見交換がなされ、参加者に対して、少なくとも問題意識・必要性を感じてもらえたのではないかと思う。



パネルディスカッション

(4) 成果報告書の作成・配布

前芝地区での聞き取り調査結果、三地区交流会・フォーラムの開催状況を記録に留めた「海・山・野」三地区トライアングル交流事業成果報告書を400部作成し、豊川流域圏内の自治体、公共施設、関係機関等に配布した。

4 事業の効果

戦後の暮らしぶりの聞き取り調査については、前芝町内の神明社氏子総代、町・正副自治会長、6老人クラブの会長さん等関係各位の多大なるご協力の下、大変スムーズに進めることができ、海苔の仕事の厳しさを始めとする盛りだくさんの話を伺うことができた。

そういう中で、厳しい中にも村中が同じ仕事で、お互いを助け合ったり、励ましあったりしていた暮らしぶりが確認された。今は生活様式が大きく変わり、便利さを享受しながらもこのままでいいのだろうかという、素朴な疑問が参加者の中で浮かび上がったことは大きな成果であった。

交流会については、参加者からは、今後このような企画があれば参加したいという意見が多く、良かったと評価された。話だけでなく、直接現地で見て触れ合い、その地域を知り、お互いを知ることの大切さが実感できた交流会であった。小学生のころ、遠足で前芝海岸へ潮干狩りに来た七郷一色の方々は、再度前芝海岸を見て、特になつかしさがこみ上げ感激しており、交流会の効果の大きさをみることもできた。

フォーラムは、今回の一連の活動に参加した関係者を含め、80人近い参加者で会場が一杯になり、関心の高さがうかがえた。

今回の事業を通じて、幅広く豊川の上流域から下流域までの戦後の暮らしぶりを振り返り、あらためて今を見ることにより、「人と人とのふれあい」の大切さを再認識することができた。またそれを、フォーラムや成果報告書を通じて、豊川流域圏内の住民の方々に提言することができ、互いに理解し合うことの必要性を感じてもらえたのではないだろうか。

今後の流域圏の連帯意識の醸成に向けての一助になったのではないかと思う。

5 今後の課題及び展開

海には海の問題があり、山には山の、野には野の、それぞれ抱えている問題がある。今回の試みにより、それを解決する糸口として、精神的には豊かであったとも言える昔の暮らしぶりを再認識することも重要であることがわかった。そしてこれを“母なる豊川”でつながった流域圏全体という観点で捉えれば、さらに今とは違ったものが生まれてくるのではないか。

今回開催した交流会では、今後も参加したいという方がほとんどであり、流域圏の一体化に向けた取組みとしては、交流会は大変有効な手段に位置付けられる。

単に今回の三地区のみならず、東三河、豊川流域圏全体の中で、交流し合うことができれば、海・山・野が、それぞれ抱えている問題を解決できる糸口が拡がり、またその自然の恵みも享受し合うことができるのではないか。基本は過去の経過を踏まえた中で「人と人とのふれあい」の場を重ねることにある。

今後も地道に交流を続けていきたいものである。

そして今以上に、流域圏に住む人々が豊川流域圏づくりに関心を持ってくれることを祈る。